

A. K. 2025年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私の学生時代は、地域に関わる実践的な学びを軸に、フィールドワークを通して多様な人々と向き合いながら、自分の視野と経験を広げた4年間でした。特に実習とゼミ活動では、地域づくりに必要な姿勢や考え方を深く学ぶことができました。

ボン・ジョーノ実習では、地域の方々のコミュニティ形成を支援するため、イベントの企画・運営に取り組みました。実際に現場に入ると、思い通りにいかないことも多く、準備段階から当日の運営まで、チームで何度も話し合いながら進めました。その経験を通して、信頼関係は日々の小さなコミュニケーションの積み重ねで生まれること、準備段階での丁寧な計画が現場の安心につながることで、そして仲間と役割を補い合うチームワークの重要性を実感しました。この実習は、地域に寄り添う姿勢や課題に向き合う粘り強さを育ててくれたと感じています。

また、小林ゼミでは「公共空間の活用」や「地域の魅力発信」をテーマに、さまざまな社会実験や研究活動に取り組みました。モノレール沿線の活性化を目的とした調査や、修学旅行生・高齢者へのまちあるきガイドの実施など、現場に足を運びながら地域の課題と向き合いました。これらの活動を通じて、地域創生に関する幅広い知識を学ぶだけでなく、対象者に合わせて伝え方や視点を変えることの大切さを理解しました。自分たちの取り組みが地域の方々の反応として返ってくることに大きなやりがいを感じ、地域と関わる仕事への興味がより強くなりました。

このように、学生生活は学内外での経験が重なり合い、自分の視野を広げる貴重な時間となりました。実習とゼミで培った「計画性」「協働力」「地域を見る多角的な視点」を、今後の仕事にも活かしていきたいと考えています。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

学生時代に地域づくりの実習やゼミ活動を通して、現場に入りながら地域の魅力や課題に向き合った経験は、現在の仕事にも大きく生きています。私は現在、ふるさと納税の委託業務を担当し、自治体の方や地域の事業者さんと関わりながら、返礼品の企画提案やページ制作、マーケティング施策などを行っています。数字の分析だけでなく、生産者のこだわりや地域の特色をどう伝えるかを考える仕事であり、一つひとつの工夫が寄附につながり、最終的に地域の発展へ結びつく点に大きなやりがいを感じています。学生時代に培った「地域を見る多角的な視点」や「コミュニケーションを通じて信頼関係を築く姿勢」が、自治体や事業者との打ち合わせの場で生きてると実感しています。また、自分の提案やアイデアによって成果が数字として現れることが励みとなり、もっと地域に深く貢献できる人材になりたいという想いが強くなりました。今後は、これまでの経験をさらに広げ、自分のアイデアで地域の課題を解決できるような企画を生み出していきたいと考えています。地域の人たちと連携しながら、新しい価値や仕組みをつくり出し、持続的な地域活性化に貢献できる人材へと成長していくことが、私の将来のビジョンです。

現役生へのメッセージ

実習やゼミはもちろんですが、その他の課外活動やアルバイトなど、興味のあることに積極的にチャレンジしてみると貴重な経験ができると思います。色々な経験をすることで、視野が広がり将来の選択肢も増えていきます。実際に社会に出た時、学生時代の経験や人とのつながりは必ず生きてくると思うので、今しかできないことに挑戦しながら学生生活を楽しんでください！

(2025年11月26日執筆)



修学旅行生へまち歩きガイドをしている写真です。知らない町に興味を持ってもらえるよう、伝え方や工夫を模索しながら取り組みました。



ふるさと納税返礼品のみかんを選果している写真です。地域の力になれるよう、日々できることを考えながら業務に取り組んでいます。